

やさしいまち通信（令和3年1，2，3月号）掲載記事

コロナ禍でも思いやり ややさしさを

新型コロナウイルスの感染予防のため、人との間隔の確保やマスクの着用が欠かせない生活になりました。しかし、その感染対策によって生活の不安や不自由を感じたり、困ったりする人がいます。ここでは、身近に起こる3つのケースを紹介します。

視覚障害



不安 **思いやり**

お店のレジなどに並ぶとき、人との間隔をとるためのテープの位置が分からない。

困っている方を見かけたら、声掛けをしましょう。

聴覚障害



不安 **思いやり**

マスクによって、口の動きが読み取れずコミュニケーションが難しい。

身振りや筆談なども交えてコミュニケーションをとりましょう。

知的障害



不安 **思いやり**

マスクを着けていられず、周囲から注意される。

障害の特性上、マスクを着けられない方がいることにご理解を。

皆さまの配慮が障害のある方の不安解消につながります。